

出版デジタル機構、プリント・オン・デマンドの取次事業を開始

——電子書籍の技術が提供する紙の出版物——

株式会社出版デジタル機構(東京都千代田区神田錦町、代表取締役社長 新名 新、以下出版デジタル機構)は、利用者の注文に応じて印刷、製本、販売される「プリント・オン・デマンド(POD)」書籍のデータを、出版社から販売店に取次ぐ事業を開始いたしましたのでお知らせいたします。

出版デジタル機構は、電子出版ビジネスの市場を拡大し、新規参入を促すインフラを構築すべく、2012年4月に設立いたしました。以来、電子書籍取次事業において1,000社を超える出版社、700サイト以上の電子書店と連携し、27万タイトル以上の電子書籍データを流通させるなど、国内の電子出版市場の発展に尽力してまいりました。

この度、電子書籍流通で培ったノウハウやシステムを活用し、「POD(プリント・オン・デマンド)」出版の販売店に対し、データの取次事業を開始いたしました。

現在、国内の出版社は出版点数の増加に伴う在庫負担の軽減を図るため、過去に出版した書籍の重版に慎重になり、これを電子書籍で代替しようという傾向があります。しかしながら、こうした出版物を紙の書籍で読みたいというニーズも存在し、出版社と著作者もこの需要に応えたいと考えています。また、販売店も在庫切れによる販売機会の損失を避ける手段として、POD出版に注目しています。

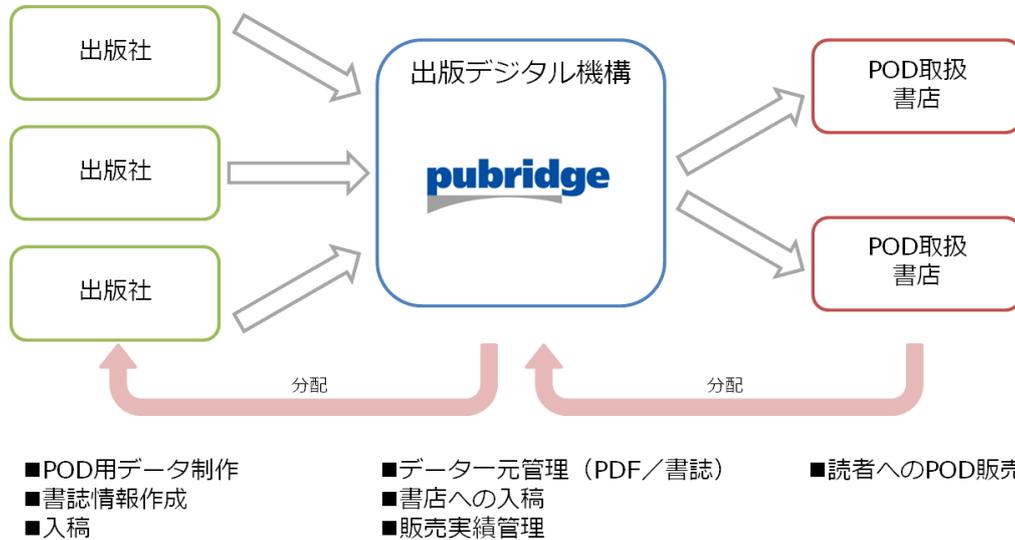
出版デジタル機構はそうしたニーズに応え、リーズナブルな価格で読者にPOD書籍を提供すべく、アマゾンジャパン「プリント・オン・デマンドプログラム」、および三省堂書店「三省堂書店オンデマンド」と、PODデータの提供に関する契約を締結、各サービスへのデータ取次を開始いたしました。

旅行および観光に関する調査研究機関である公益財団法人日本交通公社による学術的、実践的な専門書籍などを皮切りに、今後、さまざまな出版社、多種多様なジャンルの出版物のPODデータを取次いでいく予定です。

出版デジタル機構は、電子書籍流通を支えてきた実績を活かし、出版社よりPODデータをお預かりし、書誌情報と合わせ、上記書店へ提供いたします。また、各書店での販促支援、販売実績の管理、出版社への売上分配を行います。

さらに、出版社への紙書籍・電子書籍・PODデータ制作を一元化するノウハウの提供など、出版社がPOD事業に参加しやすい環境づくりを推進し、コンテンツの充実を図ってまいります。

■流通イメージ



デジタル技術を通じて、電子書籍のみならず、紙の書籍も含めた出版市場の拡大を目指す出版デジタル機構は、日本の出版文化の発展に寄与するパブリッシャーズ・サービス・カンパニーとして、今後も多くの分野で新たな挑戦を続けてまいります。

■株式会社出版デジタル機構について

電子出版ビジネスの市場を拡大し、新規参入を促すインフラを構築すべく設立。

あらゆる端末、あらゆる電子書店、あらゆる出版社を結ぶ架け橋となり、電子出版市場をつくっていくことを目的としている。

サービス名称の「pubridge(パブリッジ)」は、Publish(出版)とBridge(橋)を組み合わせた造語。

- ・ 商号:株式会社出版デジタル機構(サービス名称:パブリッジ)
- ・ 所在地:東京都千代田区神田錦町 3-20 錦町トラッドスクエア 9F
- ・ 代表取締役社長:新名 新
- ・ 株主:産業革新機構、講談社、集英社、小学館、大日本印刷、凸版印刷、KADOKAWA、
光文社、新潮社、文藝春秋、インプレスホールディングス、筑摩書房、有斐閣、勁草書房、
版元ドットコム、平凡社
- ・ 設立:2012年4月2日
- ・ 資本金:39億2800万円
- ・ URL:<http://www.pubridge.jp>

このリリースに関するお問い合わせは出版デジタル機構 広報担当までお願いいたします。

TEL : 03-6837-1875 MAIL : press@pubridge.jp